

Color TSUCHIURA

Combination Life

7 班

村上大輔[TA]

島田達成[班長]

梶谷篤史[主将]

堂下和宏[Cap.]

吉川重和[匠]

山田翔太[リーダー]

1. 土浦市の現況と課題

土浦市の現状を分析したところ土浦市には多岐にわたる特徴があることがわかった。筑波山と霞ヶ浦に囲まれ、自然に恵まれた土地であり、レンコン生産量は全国 1 を誇る。また土浦城址など歴史的資源も有する県内有数の大都市である。

一方で商業集積の衰退、近隣公園の不足、犯罪率の高さ、耕作放棄地の増加、交通混雑など問題となる特徴も多く存在した。これらの問題は土浦全体に遍在しているものであると考え、各地域の特徴を活かした提案を行う必要がある。

2. まちづくりコンセプト

Color TSUCHIURA

Combination Life

A. 将来都市像

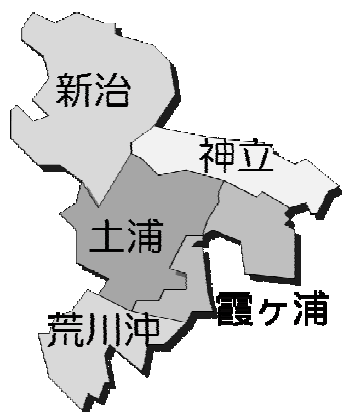
土浦市には神立や新治など特徴的な性格をもった地域がある。しかし現状ではそれらの個性を十分に活かすことが出来ていない。そこで、「地域の個性活かすまち」「地域と地域つながるまち」を目標とし、「地域同士が長所・短所を補い合いさまざまな生活スタイルを提供する」ことにより、市全体としてバランスのとれたまちを目指す。

B. 基本理念

- ✓ 地域をほこれるまちづくり
地域の特色を最大限活かし、市民がほこりを持って生活できるようなまちづくりを進める。
- ✓ 地域、人、モノがつながるまちづくり
地域や人、モノがさかんに交流し、ふれあい、様々なつながりのあるまちづくりを進める。
- ✓ 安心で快適に暮らせるまちづくり
市民が安心・安全で快適な暮らしをおくることができ、やすらぎのあるまちづくりを進める

3. 地区別基本構想

土浦市を地域の特色ごとに、以下の 5 地域に分けて考える。



A. 土浦駅周辺地区

《現況》土浦駅周辺に商業集積があるが、大規模商業施設の相次ぐ衰退や都市機能の郊外移転で活気がない。歴史的遺産は多いが、まちかど蔵のように整備されたものは少ない。また、他地域に比べて自然も少ない。

《方向性》歩きたくなる街をテーマに、通過交通の排除など歩行空間の充実化を図り、商業集積に相応しい魅力ある空間を創出する。また、地元農産物や工業製品を販売するなど地域の魅力を再認識する場を提供する。

B. 新治周辺地区

《現況》全域に農村が広がり集落が点在しており、筑波山麓には豊かな自然や里の景観が残っている。また、国道125号沿いは市街地化が進んでいる。幹線道路の整備は進んでいるが、公共交通が路線バス1路線のみと脆弱である。

《方向性》豊かな自然と農村環境を活かした心のふるさとづくりを進め、産業としての農業だけでなく、都市住民との交流の場としての農村を目指す。

C. 神立周辺地区

《現況》幹線道路沿いに日立関連企業を中心とした工場が立ち並び、しかし、一本道を入れば住宅地が近接。住宅地には公園も少なく、住環境として不十分。

《方向性》職住近接都市として工場と住宅の共生を目指す。

D. 荒川沖周辺地区

《現況》戸建住宅を中心とした閑静な住宅街であるが、幹線道路沿いにはロードサイドショップが立ち並び、交通量が多い。荒川沖駅は学校への最寄り駅としても機能している。

《方向性》防犯活動や近隣公園やオープンスペースの整備などで安心安全な生活環境を提供する。また、道路環境の整備により国道6号の混雑緩和を目指す。

E. 霞ヶ浦周辺地区

《現況》土浦駅東口にはホテルや業務ビルが立地している。霞ヶ浦湖畔では広大なハス田でレンコン栽培が行われている。県道263号線での交通混雑や多くの未舗装の道路などが存在している。川口総合公園・霞ヶ浦総合公園など公園は多いが利用者は少ない。

《方向性》土浦駅東口駅前空間の有効活用と活性化を図る。県道263号の混雑緩和、生活道路の拡幅など交通対策を強化。また、霞ヶ浦や湖畔を活かした憩いの場を創出する。

4. 重点整備計画

A. 交通重点整備計画「土浦交通ネット」

《現況と課題》市内を南北に国道6号と常磐自動車道、東西に国道125号が走るのに加えて、国道354号や学園東大通りなど幹線道路も集まっており、自動車交通網は充実している。しかしながら、これら幹線道路を中心に、通過交通と域内交通の集中で渋滞が慢性化し、利便性を大きく損ねている。また、公共交通においても、南北にJR常磐線が走り、その駅を結節点として路線バス網が発達している。土浦駅周辺の中心市街地には循環バスが、また、市内の高齢者向けには乗合タクシーが運行されている。しかし、路線設定や運賃設定が利用しづらいものとなっている。

したがって、公共交通の利用促進で交通集中を緩和するとともに、これから増加していく高齢者など交通弱者への配慮を行う必要がある。

《目標》地域の現状に合った利便性の高い交通網の整備を行い、

道路渋滞の緩和や交通弱者への配慮を行うとともに、地域内や地域間での交流を活性化させる。

《具体的な提案》

①公共交通網の整備

市内には様々な特徴を持った地域があり、それぞれの地域に合った公共交通網を整備する必要がある。既存の鉄道・バス路線周辺では、既存路線と一体的に運用し、民間で不足する分を市が補う形で既存路線との共存を図る。中心市街地や住宅集積地では短路線かつ多頻度の循環型コミュニティバスで近距離移動での利便性を高めるとともに、拠点中心の活性化を図る。その他の地域では予約のある停留所のみを回るオンデマンドバスや同一方向の利用者をまとめて運ぶ乗合タクシーを活用し、低密度地域での利便性の向上を図る。(図4-1)

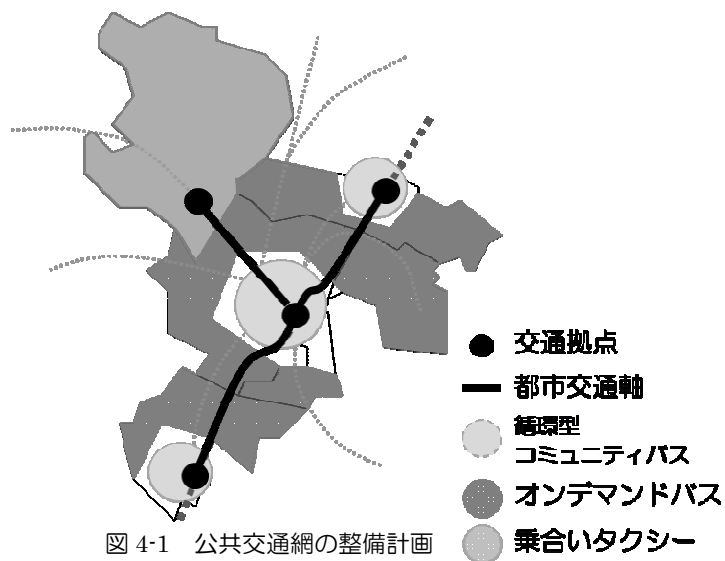


図4-1 公共交通網の整備計画

②利用促進施策

どこへ行くのにも便利な運賃、運行設定にするとともに、市民への周知や意識改革によって利用促進を図る。運賃については、乗り継ぎ割引券を発行し乗り継ぎ先の運賃を半額とすることや、地域通貨で運賃を支払えるようにする。路線やダイヤについては、既存交通機関との重複を避け、交通網の空白地帯を埋めるように設定するとともに、乗り継ぎ拠点では他の路線やパーク＆ライドを考慮する。また、市民への情報発信方法としては、高齢者や転入者に対しては路線図や時刻表などの紙媒体、買い物客などのライトユーザーには街頭のタッチパネル式案内板や統一された標識、通勤や通学などでのヘビーユーザーには携帯電話を使ったインターネットでのロケーションシステムや乗換案内というように、ターゲットを絞ったものを行う。

II. 交流重点整備計画「キララネット」

《現状と課題》我々の掲げる「地域と地域つながるまち」を実現する上で、現状として地域間のつながりが希薄である。特にこれまで多くの人々を惹きつけていた土浦駅前の商店街が衰退している。また現在、NPO法人によって地域コミュニティバス「キララちゃんバス」が運行され、協賛店との間で地域通貨「キララ」が利用されているが、“バスの回数券”としての利用に止まっている。したがって、中心市街地の活性化や道路混雑の解消を行い、地域間交流を創出する必要がある。

《目標》地域通貨を活用し、商店街、農業の活性化や公共交通の利用促進を進め、地域間コミュニティを創出する。

《具体的な提案》

地域間コミュニティ創出の手段として、現在の地域通貨「キララ」を改良する形で導入する。

—「キララ」について—

NPO法人まちづくり活性化土浦と協賛商店街の間で発行されている地域紙幣。コミュニティバスを利用した上で協賛店にて1000円以上の買い物をすると、100キララを配布。また、NPO法人から1000円＝1000キララで直接購入することができる。100キララはコミュニティバス乗車1回分(100円)に相当し、他の用途には使用できない。

「キララ」を手に入れる機会及び使用できる範囲を広げることにより、より効果的な地域通貨にしていく。例えば、現在の商店街店舗だけでなく、新治地区の農家やNPO団体にも協賛事業者を拡大し、農作ボランティア活動に対して「キララ」を配布する。また協賛店での「キララ」対象商品・サービスや、土浦市内の農家で収穫された地場産品をキララで購入できるようにする。さらに、キララちゃんバスだけでなく、コミュニティ交通網のどの地域でも使用できるように範囲を拡大する。(図4-2)

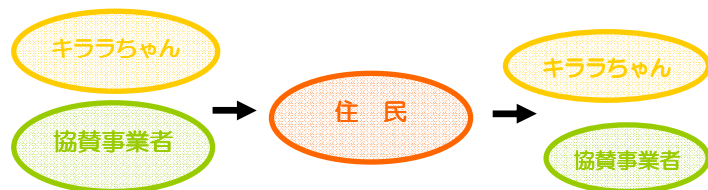


図4-2 改良版「キララ」流通経路

「キララ」によって公共交通機関の利用や、商品サービスの享受だけでなく、商店街や農家、NPO法人といった協賛事業者に興味をもってもらう。ボランティア活動への参加の動機づけともなる。

C. 地区別重点整備計画

(1) 土浦駅周辺地区重点整備計画「あゆみプロジェクト」

《現状と課題》土浦駅周辺は、土浦市の中心として古くから機能してきたが、大規模商業施設の撤退や都市機能の郊外移転で衰退している。また、国道125号をはじめとする道路混雑も慢性化し、まちの魅力を低下させている。そこで、道路環境整備を通して、中心市街地としてのにぎわいのあるまちを取り戻す必要がある。

《目標》土浦駅周辺地区では(歩きたくなる街)をテーマに、歩行空間の充実化を図り、徒歩による市街地の回遊性を高め、土浦の玄関口である駅前空間を魅力あるものにする。整備の軸を土浦駅からまちかど蔵までの国道125号線に定め、この軸を中心に整備を進める。

《具体的な提案》

①建て替え助成

中城通りを中心とした歴史的景観形成をさらに促進する。大和町と中央の125号沿いを景観形成地区に指定し、基準に適合するような建築物の建て替え行為に対して助成金を交付する。主な基準は(1)建物正面の戸及び窓に格子を用いる(2)外壁は黒、白又は茶を基調とする(3)外観に木目素材を用いること。建て替えによって1階と2階以上の利用動線を明確に分け1階にテナントを誘致できるようにする。

②道路環境整備

徒歩による市街地の回遊性を高めるため、平日日中(10-16時)を歩行者天国とし、外部からの交通の流入を遮断する。(図 4-3)
規制区間の移動は徒歩または自転車に限定し、緊急車両、その他許可車両のみを進入可とする。このとき、JICA STRADAでの分析によると規制の影響で回りに大きな影響を与えないことが分析の結果わかった。更に休日のみの実施、公共交通機関の利用促進による流入交通の減少により周辺交通に問題はない。また、まちかど蔵周辺で行われている道路整備を国道125号線の規制区間へ延長し、駅から蔵までの道筋を作る。



図 4-3 土浦駅周辺

③土浦マルシェ

各地域間の交流拠点として、「土浦」の魅力を住民に実感してもらえる場を提供する。

新治地区などで生産された農産物や神立地区などで生産された工業製品の一部を販売する。生産者が消費者に直接話ることができるのが最大の魅力であり、消費者もまた生産者を見ることができるため安心して商品を購入することができる。地域通貨を利用して購入することもできるようにシステムを整え、活発な交流が行われるように促す。

④路面舗装

車両規制をする354号線との交差点より北西部の長さ190m、幅2.4mの左右両方の歩道の石畳風舗装をする。

ー「石畳風舗装」についてー

石畳風舗装とは、アスファルト舗装の上に乳白色のごく薄い加工セメントを重ね、表面を削った後、等間隔に切れ目を入れる工法。アスファルトの骨材の小石が浮かび上がって凸凹になり、自然石のように見え石畳と見栄えに遜色は無い。

京都の上七軒通等で採用実績があり、1㎡あたりの工費は 約3.5万円と、石畳の10万円より大幅に安い。今回の事業で要する費用は石畳の場合9120万円だが、石畳風舗装ならば3192万円となる。石畳風舗装により人々が歩きたくなる環境を提供する。

⑤ミニパーキング

土浦中心地の人通りは少ないが、車の通行量が多い。商店に寄るときは路上駐車をして寄るために車道の混雑を引き起こす原因ともなっている。そこで商店街に近い土地に、短時間の利用は無料のミニパーキングを提案する。長時間の利用は既存の駐車場よりも高くし、利用の仕方の住み分けをする。

商店に気軽に立ち寄れる環境を作ること、人々が商店街を歩き活気が生まれる。また路上駐車をなくし、自動車の駅前ロータリーへの流入を減らすことで混雑の緩和を図る。

(2) 新治周辺地区重点整備計画「心のふるさと計画」

《現状と課題》市内を南北に国道6号と常磐自動車道、東西に国

道125号が走るのに加えて、国道354号や学園東大通りなど幹線道路も集まっており、自動車交通網は充実している。しかしながら、これら幹線道路を中心に、通過交通と域内交通の集中で渋滞が慢性化し、利便性を大きく損ねている。また、公共交通においても、南北にJR常磐線が走り、その駅を結節点として路線バス網が発達している。土浦駅周辺の中心市街地には循環バスが、また、市内の高齢者向けには乗合タクシーが運行されている。しかし、路線設定や運賃設定が利用しづらいものとなっている。したがって、公共交通の利用促進で交通集中を緩和するとともに、これから増加していく高齢者など交通弱者への配慮を行う必要がある。

《目標》地域の現状に合った利便性の高い交通網の整備を行い、道路渋滞の緩和や交通弱者への配慮を行うとともに、地域内や地域間での交流を活性化させる。

《具体的な提案》

①3種類の農業体験

都市住民と地域住民の関わり具合から、3つのスタイルの農業体験を提案する。

一つ目は観光や教育で一時的に訪れるもので、観光農園や果樹園、古民家などが挙げられる。主に小中学生や家族層を中心とし、貸切バスや自家用車でアクセスしやすい場所に立地する。石岡市八郷地区との連携も視野に入れる。

二つ目は都市に暮らしながら定期的に訪れる市民農園である。農具の貸出や水、肥料の提供、更衣室やシャワー等の設備を整えることで、手ぶらで通える環境をつくり、公共交通機関や、ジョギング、サイクリングでのアクセスを促す。また、農業指導などにより、地域住民との交流の機会を設け、農業への理解を促す。

三つ目は実際に農村に暮らす自給自足型で、集落内の空き家や周辺の住宅と、未整備農地を貸し出す。農業研修や地域の祭りなど、その地域に定住することを目的とする。環境意識の高さから、里山保全などのボランティア活動も期待できる。

②余剰生産物の直販売

中心市街地での土浦版マルシェなど、生産者が直接販売する機会を設け、市民農園や農村移住者のモチベーションを高めるとともに、都市住民に近い生産者の立場から、農の大切さを伝える。

(3) 神立周辺地区重点整備計画「神立わくわく工業体験」

《現状と課題》大規模工場が多数立地し、土浦の工業の中心を担っている。工場周辺には職住近接型の住宅地が立地しているが、都市基盤整備が不十分で住宅地としての価値は低い。道路整備や神立駅の有効活用により住宅地としての価値を向上させる必要がある。また、地域の特色としての工業を住民に発信し、工場と住民との心の障壁をなくす必要もある。

《目標》職住近接都市としての住環境の改善と、地域の産業としての工業の魅力を住民に発信する。

《具体的な提案》

①住環境整備

工業専用地域と住居専用地域の間に位置する準工業地域では無秩序な宅地開発がみられる。工場と住宅が混在する状況で緑道や公園の整備によって双方が近接しながらも快適な空間としていかなければならない。また、かすみがうら市境では非連続的な空間となっている場所がみられる。用途地域の見直しを行う必要がある。

②わくわく工業体験

土浦・千代田工業団地を中心に、多数の工場が立地しているが、住民にとって工場で行われているのかは不透明である。そこで、多数の工場が立地している特色を生かし、工業の魅力を住民に発信する場を設ける。大人から子供まで楽しめる見学・体験のしかけや、多岐にわたる工場が連動することで、参加しやすい環境を作る。また、地域通貨や交通網の整備により、工場周辺だけでなく広い地域からの集客を図る。

(4) 荒川沖周辺地区重点整備計画「やすらぎタウン」

《現状と課題》戸建住宅が立ち並び閑静な住宅街である一方、桜土浦I.C.や国道6号、学園東大通りなど主要幹線道路が集まる交通の要所でもあり、周辺道路の混雑が激しい。また平成20年3月に通り魔事件が起き、防犯面の不安もある。道路混雑解消による利便性向上を図るとともに、住民が安心して暮らせるまちづくりを進める必要がある。

《目標》周辺道路の混雑解消や防犯対策、公園緑地の整備により、住環境の充実度アップを図る。

《具体的な提案》

①わんわんパトロールと防犯ステーション

茨城県の飼育犬保有率は全国6位と高い。その要因として土地が広く一軒家が多いことなどが挙げられるが、荒川沖周辺地区はその要素を満たしている。そこで犬の散歩を防犯パトロールに役立てるわんわんパトロールを提案する。

ー「わんわんパトロール隊」について

愛犬と共に地域貢献をしたいという発想から生まれた団体。腕章などを付けて散歩するだけで防犯パトロールとして機能し警察や防犯自治体だけでは生じてしまうパトロールの穴を埋め安心安全な地域形成に寄与する。

わんわんパトロールにより犯罪抑止効果、住民の防犯意識向上、また犬を通しての地域コミュニケーションを提供する。平成21年12月に開設された「防犯ステーション まちばん荒川沖」を拠点とし、防犯力向上と地域コミュニティの形成を図る。

②バイパス整備の推進と既存道路の改良

牛久土浦バイパスを整備することにより、国道6号やその周辺道路の混雑が緩和することがJICA STRADAでの分析により確認できた。また、既存道路の歩道整備、凹凸解消、電柱・標識の設置箇所見直しによって、駅周辺と住宅地の歩行空間を確保し、住民の利便性向上を図る。

③公園緑地の魅力価値向上

野鳥が棲む長閑な公園として親しまれている乙戸沼公園をトイレ整備や歩道路面の改良により利用者の満足度を高める。また荒川沖駅周辺に点在する神社境内などのオープンスペースを緑地化し駅周辺に不足する緑地を提供し、子どもの遊び場となる小さな公園やドッグランができる施設をつくる。ドッグランはわんわんパトロールの際に利用でき、その場を通じて飼い主たちのコミュニティを創出する。

(5) 霞ヶ浦周辺地区重点整備計画「動一よ 霞ヶ浦プロジェクト」

《現状と課題》土浦駅から比較的に近い距離に霞ヶ浦総合公園や川口運動公園といった市民の憩いの場となれる空間がある。さらに、日本第二位の面積を誇る霞ヶ浦や桜川といった水辺空間が豊富。しかし、川口運動公園は老朽化し常名地区への移転が予定さ

れている。また水辺空間の魅力を生かしけておらず、全体的に集客力が低い。したがって霞ヶ浦や総合公園、運動公園など自然空間を有効活用し、安全で身近なスポーツ施設の提供することにより、魅力ある空間づくりを行う必要がある。

《目標》霞ヶ浦や近隣公園をとりまく新たなコミュニティの創出や、住民の健康促進、生涯スポーツの発見による生きがいある暮らしの提供により、市民にとって本当の意味で近い霞ヶ浦にする。

《具体的な提案》

①魅力ある公園づくり

川口運動公園は土浦駅から徒歩8分という立地のよさを考えると他の近隣公園には出来ない魅力を秘めている。移転するのではなく大規模な改修を行い、市民が安全に利用できるようにする。ナイター設備やクラブハウスを設置し、より快適に利用できるようにする。また、霞ヶ浦総合公園では市民が直接霞ヶ浦の水に触れられるような親水空間を設ける。

②霞ヶ浦スポーツクラブの整備

霞ヶ浦、運動公園、総合公園のさらなる利用を高めるため、様々なスポーツを一元運営する総合型スポーツクラブを設立する。種目には登山やヨット、トライアスロンなどを設け、土浦だけにしかできないスポーツクラブを目指す。

ここでは、市民の定期的、持続的なスポーツ活動を促すため、種目やレベルに多様性を持たせ、各種目とも様々な年齢層、職業体系の市民が利用可能なコースを設ける。また、市内外大会への参加や、大会を主催することで活動の目標を明確にする。単に運動する場としてだけでなく、会員同士が触れ合う機会を設け、コミュニティ形成の場としての役割を担う。

将来的には、NPO法人を取得し、住民が主体となって運営するとともに、既存のスポーツクラブとの連携を強化していく。

5. 参考文献

土浦市公式ホームページ <http://www.city.tsuchiura.lg.jp/>

龍ヶ崎市のコミュニティバス

<http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/COMMUNITYBUS>

東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻オンデマンドバス

<http://www.nakl.t.u-tokyo.ac.jp/odb/>

コミュニティバス等地域住民協働型輸送サービス検討小委員会報告書

<http://www.mlit.go.jp/jidosha/iinkai/tiikikoutu.pdf>

まちづくり活性化バス「キラウちゃん」

<http://www.tsuchiura.jp/kirarabus/gaiyo.html>

豊田市中心市街地活性化基本計画交通計画編（案）

<http://www.city.toyota.aichi.jp/>

平成17年度八戸市都心再生にぎわいトランジットモール社会実験報告書

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/9,782,18,1,html>

マルシェジャポン <http://www.marche-japon.org/>

関東農政局 <http://www.maff.go.jp/kanto/>

神立駅周辺地区バリアフリー基本構想

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1235372052_doc_34.pdf

土浦市バリアフリー基本構想

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1241059419_doc_34.pdf

国土交通省・関東地方整備局 <http://www.ktr.mlit.go.jp/>

茨城県土木部土木事務所

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/doboku/01class/class23/>

土浦スポーツ健康倶楽部 <http://tsuchiuraclub.jp>